

## 事例6 2 移送水量を回復させた事による水質改善事例

### 1. 基本情報および一年間の測定結果

処理方式	性能評価型 窒素除去型	作業予定月	
メーカー/型式	大栄産業(株)/FCE型	保守点検	1・5・9月
人槽/使用人員	7人槽/5人使用	清掃	3月
日平均汚水量	1.02m <sup>3</sup> /日	法定検査(7条)	10月

	放流水透視度(度)	DO (mg/L)	pH	1次処理流出水透視度(度)	1次処理1室 (cm)		1次処理2室 (cm)		沈殿槽 (cm)		
					スカム厚	堆積汚泥厚	スカム厚	堆積汚泥厚	スカム厚	堆積汚泥厚	
保守	平成26年5月16日	41	3.6	7.1	15	2	6	/	/	0	3
保守	平成26年9月26日	32	2.8	7.3	12	12	27	/	/	0	5
法定	平成26年10月20日	18	1.5	7.5	10	12	20	/	/	5	20
保守	平成27年1月14日	35	4.3	7.1	14	15	25	/	/	8	5
清掃	平成27年3月予定										


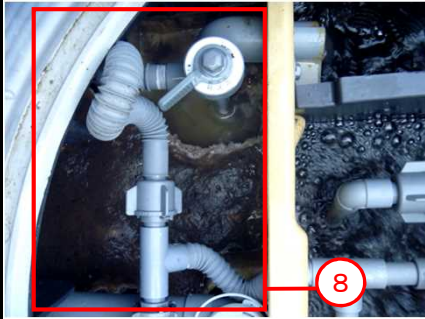

### 2. 浄化槽の概要図と法定検査時の設定状況

概要図		法定検査時の設定状況		
<p>概要図</p> <p>HWL LWL</p> <p>接触材 担体</p>		メーカーの基本設定	保守点検の設定	
		循環水量	初期要領書2Q 1.42 L/分	1.4 L/分
		移送水量	初期要領書4Q 2.83 L/分	2.8 L/分

### 3. 法定検査時の槽内状況

1次処理1室	1次処理1室/2次処理/沈殿槽
<p>流入</p>	<p>放流</p>
<p>1次処理は1室構造(ピークカット機能)</p> <p>①汚泥貯留槽 ②固液分離部 ③接触材充填部</p>	<p>④間欠定量移送装置 ⑤循環バルブ ⑥担体流動室(攪拌強い) ⑦緩担体流動室(攪拌弱い) ※撮影の為、消毒筒は取り外しています</p>

#### 4. 透視度低下の原因と保守点検への申し送り事項

間欠定量移送装置	1次処理 固液分離部	2次処理
		
原因 ④スライムの付着により移送水量が2.8L/分から1.0L/分に減少	⑧移送水量が減少した事で1次処理が高水位状態	⑨ピークカット機能低下により2次処理に汚泥が多い



申し送り	① 間欠定量移送装置の点検及び洗浄し、移送水量を基本設定に戻して下さい ② 2次処理のスカム及び堆積汚泥を移送して下さい
------	---

#### 5. 保守点検からの経過観察

測定値		措置① 平成 26年 10月 24日 (法定検査から 4日後)
放流水透視度(度)	18	状況確認と指示とおりに措置を行う
測定値		措置② 平成 26年 11月 7日 (法定検査から 18日後)
放流水透視度(度)	21	間欠定量移送装置は正常に稼動し、移送水量に変動なし 槽内水位はL. W. L. です 沈殿槽の堆積汚泥厚は11cmまで減少し、1次処理へ移送しました
沈殿槽堆積汚泥厚(cm)	11	
移送水量(L/分)	2.8	
測定値		措置③ 平成 26年 11月 18日 (法定検査から 29日後)
放流水透視度(度)	24	回復傾向がありますので次回まで様子を見ます
沈殿槽堆積汚泥厚(cm)	5	
移送水量(L/分)	2.7	
測定値		措置④ 平成 26年 12月 4日 (法定検査から 45日後)
放流水透視度(度)	38	透視度が回復しました
沈殿槽堆積汚泥厚(cm)	5	
移送水量(L/分)	2.6	

#### 6. 保守点検から清掃への申し送り事項

① 循環水量は1.4L/分で調整しています ② 移送水量は2.8L/分で調整しています
--

#### 7. 清掃時の留意点

① 適正量引抜き区分 ○-/-☆ (/-:2室無) ② 間欠定量移送装置の点検及び洗浄を行う ③ 1次処理の底部は脱室に必要な汚泥を残す為、仕切板(高さ100mm)が設けてある 【ろ材の形状】 1次処理1室:無し(接触材:網様円筒状)
--